

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4444
24年5月7日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

祝第95回 メーデー開催

おはようございます。
5月1日(水)第95
回メーデーが開催され、
支部からも例年通り長崎
地区労メーデー、長崎県
労連メーデー長崎県集會
に参加しました。

長崎地区労 メーデー

五島町公園で開催され
た長崎地区労メーデーに
は組合員、退職者含めて
13名が参加しました。
当日は8時30分より
新社会党のビラ配布から
行動はスタートしました。
ビラの受け取りはよく、
ほとんどの参加者に手渡
すことができました。
9時、集會は松尾地区
労副議長の司会でスター
トしました。長崎地区労
を代表して小宮地区労議
長が挨拶を行ったあと、
来賓挨拶がありました。

集會終了後、デモ行進
へと出発しました。交通
規制が行われる中、各組
合のぼりを掲げゴール
の江戸町公園を目指しス
タートしました。デモ行
進は30分程で江戸町公
園に到着し流れ解散とな
りました。

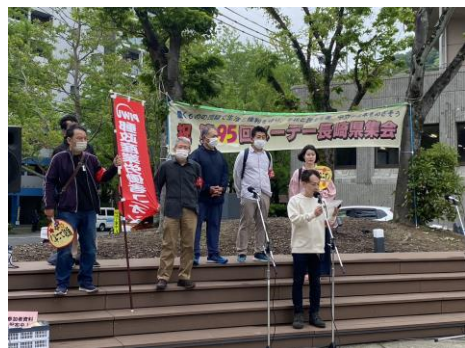


解散後、現役組合員は
長崎県労連メーデー集會
の開催場所の魚の町公園
に向かいました。

長崎県労連メー デー長崎県集會

魚の町公園で開催され
た第95回メーデー長崎
県集會には、現役組合員
を中心に8名が参加しま
した。主催者発表では2
1の団体の参加で全体の
参加者は約300人とし
た。
リレートークでは、郵
政ユニオンも壇上に上が

り「ヤマト運輸との協業
問題や24春闘でのスト
ライキについて」発言し
ました。



マイクを握った佐田執
行委員は、24春闘で会
社が回答した「非正規社
員へのベア0回答には強
く抗議する」と参加者に
力強く訴えました。

※ ※ ※

事故事例研究会の 開催は必要か？

「このような事故を起
こしてしまい申し訳あり
ません」「私のために皆さ
んの貴重な時間を取らせ
てしまい申し訳ありませ
ん」事故事例研究会(以
下、研究会)の多くは、
当事者のこのような謝罪
から始まる。

過失割合にかかわらず、
研究会を開催しなければ
ならなかったこと、が悪
いと言わんばかりだ。今
回もその流れになるのだ
ろうか。

30日の火曜日の朝、
全体ミーティングで3集
課長が、28日に起きた
四輪車での交通事故につ
いて、「事故を発生させて
申し訳ありません」とマ
イクで謝罪をした。この
謝罪に違和感を覚えた社
員は私だけではないはず
だ。

事故の様子を写したド
ライブレコーダーからは、
完全に相手車両の前方不
注意に思えた。過失割合
は保険会社が決定するが、
どう考えても相手車両の
方に過失割合が大きいと
思われる。にもかかわらず
研究会を行うようだ。

こし再発防止策を策定し
同種の事故を再発させな
いためには行うものだと
いう。しかし言葉通りにと
らえる社員は少ないだろ
う。

今回のように最大限事
故回避に努めた場合でも
本人にも非があるとして
反省を求められる。局長
や指導官などに見つめら
れる中、原因や再発防止
について話さなければな
らないのは相当なプレッ
シャーであり、精神的に
大きな負担となるのは想
像に難くない。

ユニオンは研究会では
なくても、当該の部でし
っかり話し合いを行い、
再発防止策を考えれば結
果は得られると考える。
当然、今回のケースは
研究会を開催するほどの
ものではない。それより
も当事者となってしまう
落ち込んでいる社員のフ
ォローに力を入れるべき
だ。過去には、研究会で
責められたことを苦にし
て退職した社員もいる。
過失が小さな事故に関
しては、研究会を開催し
ないなど、研究会の在り
方も検討するべきではな
いだろうか。



会社は、研究会は本人
を責める場ではなく、事
故の原因・遠因を掘り起



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員が正社員化を。

ゆげせ、均等待遇、なげんご差別。ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ!